

令和7年度

「運営に関する計画」

— 最終評価 —

大阪市立市岡中学校

大阪市立市岡中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

○ 学校教育目標

自律した個人として自己を確立させ、他者と協力し、これからの社会を担うことをめざし、心豊かに力強く生き抜く力を育む

I、学校運営の中期目標（2025年度末まで）

現状と課題

- ・心豊かに力強く生き抜く力を育むため、主体的・対話的で深い学びが求められている。それを目指すべく、一方通行の授業形態の改善に取り組んでいる。学びの主役を生徒に据え、日々の学習活動において、工夫・改善を図ることで、生徒の学習に対する取り組みに積極的な姿勢がみられるようにしていく。その成果の一つとして、チャレンジテストにおける対府比を同一母集団で比較し前年より向上しているか、また、校内調査における対話的で深い学びにかかる質問への最も肯定的な回答の割合を指標とする。
- ・他者と協力し、これからの社会を担うことをめざさせるために、様々な教育活動の場面で、互いを思いやる心の育成を主眼とした学校行事の計画実践が必要である。本校の生徒は、他者と協力し合う姿勢の定着がみられ、秩序ある集団に成長しつつある。さらに改善と向上を目指す必要がある。
- ・自律した個人として自己を確立させるために、道徳心をしっかりと熟成させ、生徒に他との違いを感じさせる体験を十分に積ませることが必要である。
- ・安全で安心した学校環境を確立するための特別支援教育の充実は必要不可欠である。ユニバーサルデザインの定着を図り、特別支援教育担当、特別支援委員会を中心に、生徒個々の状況をしっかりと把握するとともに、共通理解をし、全教職員で、生徒に寄り添い、一人ひとりを大切にしたきめ細やかな指導と支援の充実、定着を図る必要がある。

学校運営の中期目標（2025年度末まで）

【安全・安心な教育の推進】

- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。
- 年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査における、「自分には、良いところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を60%以上にする。
- 中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.2ポイント向上させる。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より0.1ポイント向上させる。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を50%以上にする。

2、中期目標の達成に向けた年度目標(全市共通目標を含む)

【安全・安心な教育の推進】

- ・年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。(R6 82%)⇒77%
- ・年度末の校内調査における不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。(R6 12.8%)⇒12.5%
- ・年度末の校内調査における、「自分には、良いところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を76%以上とする。(R6 75%)⇒83%
- ・多様な学びを保障するための場所を1教室以上、担当する人材を2名以上確保し、市岡中スタンダードver4.0の移行を図り、不登校生の減少につとめる。⇒確保できている

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を50%以上にする。(R6 49%)⇒54%
- ・中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.1ポイント向上させる。(R6 [1年]国語0.99/数学0.99 [2年]国語0.99/数学0.99 [3年]国語0.99/数学0.85)⇒[1年]国語/数学・[2年]国語/数学・[3年]国語1.00/数学0.92)
- ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より0.05ポイント向上させる。(R6 男子1.03/女子1.04)⇒男子0.10/女子0.10
- ・中学校チャレンジテストにおける社会・理科・英語の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.1ポイント向上させる。(R6 [1年]英語1.12・[2年]社会1.12/理科0.94/英語0.94・[3年]社会0.91/理科0.88/英語0.96)⇒[1年]英語・[2年]社会/理科/英語・[3年]社会0.99/理科0.88/英語0.94)
- ・授業評価アンケートにおける「授業はめあてと振り返りがわかりやすく提示されていますか」に対して、学校平均を3.55ポイント以上とする。(R6 3.53) ⇒3.23

【学びを支える教育環境の充実】

- ・授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。⇒(5月)70.0% (6月)57.1% (7月)61.5% (8月)25.0% (9月)75.0% (10月)61.9% (11月)94.4% (12月)88.2% 累計70.9%
- ・「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を50%以上にする。(R6 39.53%) ⇒41.86%
- ・地域の人と協働し、学校内居場所事業「はとばカルッチャ」を週に1回程度開催し、生徒の自己有用感を高める。⇒週1回程度の開催に加え、元気アップ事業として天体観測会を2回実施した。

3、本年度の自己評価結果の総括

- ・本年度も継続して「いじめ」についての取り組みを行ってきたが、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合は昨年の82%から77%に減少した。ただ、学年ごとに割合は増加しており3年生においては84%である。学齢が上がるごとに割合は増加しているので、今後も工夫および改善を図り、「いじめ」について取り組んでいく。
- ・対話的で深い学びにかかる質問の最も肯定的な回答の割合は、昨年の49%から54%に増加し講義型授業から確実に改善されつつあることがわかる。
- ・今後は、多様な学びの場を確保した取り組みの強化を学校全体で機能するようにしていく。

大阪市立市岡中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>(1) 安全・安心な教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。(R6 82%) ⇒77% 年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。(R6 12.8%) ⇒12.5% 年度末の校内調査における、「自分には、良いところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。(R6 75%)⇒83% 多様な学びを保障するための場所を1教室以上、担当する人材を2名以上確保し、市岡中スタンダードver4.0の移行を図り、不登校生の減少につとめる。⇒確保できている 	C
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【道徳教育の推進】(道徳推進担当)</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間計画に基づき道徳の授業を確保し、授業に使用する読み物教材の研究に努める。また、人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、他者と共によりよく生きるための道徳性を養えるよう努める授業の質を向上させる。 <p>指標 年度末の学校評価アンケート(生徒)において、「道徳の学習を通して自他を尊重し、互いを思いやる心が養えていると思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を95%以上にする。(R6 94%)</p>	B
<p>〔進捗状況〕 前期のアンケートでは上記項目に対し96%の生徒が肯定的な回答を示しており、今後も授業確保と授業の質の向上に努めたい。</p> <p>〔目標の達成状況と結果と分析〕 後期のアンケートでは上記項目に対し、96%の生徒が肯定的な回答を示していた。もっとも肯定的な回答は61%であり、今後も研修などを取り入れながら授業確保と授業の質の向上に努めたい。</p>	
<p>取組内容②【人権を尊重する教育の推進】(人権主担)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己を見つめ自分に自信が持てる生徒を育て、他者とともに協力しあえる集団を育成する 地域に根付いた思いやりのある生徒および学校を作り、生徒の学ぶ力、生きる力をはぐくめるよう、人権教育を実践する。 各学年、学級、部、委員会、校内組織などと連携し、生徒の生活課題を把握し、共通理解する中で、生徒の学ぶ力および生きる力を育む実践を創造し人権教育を推進する。 特別支援教育では、通常学級との交流を行い、共に豊かに生きる集団育成に努める。 <p>指標 年度末の学校評価アンケート(生徒)において、「人権の大切さについて学ぶ機会が多いと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。 ・系統立てた学習を行うために人権に関する各領域で具体的な内容を製作する。</p> <p>〔進捗状況〕 令和7年度前期学校評価アンケートにおいて、「人権の大切さについて、学ぶ機会が多いと思いますか。」の肯定的回答が95%（よくあてはまる58%、ややあてはまる37%）であった。生徒の人権意識を高めるために今後も取り組みをしていきたい。</p> <p>〔目標の達成状況と結果と分析〕 令和7年度前期学校評価アンケートにおいて、「人権の大切さについて、学ぶ機会が多いと思いますか。」の肯定的回答が94%（よくあてはまる58%、ややあてはまる35%）であった。学年別で見ると、肯定的回答が1年生 86%，2年生 99%，3年生 96%であった。また、系統立てた人権学習をしていく上で、今年度の各学年の実施状況をもとに来年度どのような人権学習をしていくべきか学校全体の協力を得ながら、熟考し発信していきたい。</p>	B

<p>取組内容③【キャリア教育の推進】(進路主事)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人が自分の個性や存在の大切さを自覚し、互いに認め励ましあい、高めあうことができる集団の育成に努める。 <ol style="list-style-type: none"> 自己の個性や職業の適正など自己理解を図る実践を行う (SP トランプなど) 職業講話 (職業体験)、高校調べ、出前授業など進路を具体的にイメージできる実践を行う。 進路説明会 (生徒・保護者) を春、秋に実施し、体験入学、学校説明会に積極的に参加するよう促し、進路選択を主体的に行えるようにする。 	B
<p>指標 年度末の学校評価アンケート(生徒)において、「将来の進路や生き方について考える機会がありましたか」に対して、最も肯定的に回答する生徒の割合を 50%以上 (R 46%) とし、肯定的に回答する生徒の割合を 90%以上 (R91%) とする。</p>	
<p>〔進捗状況〕 前期、2年生で職業体験、3年生で高校出前授業を実施した。前期学校評価アンケートで「進路について考える機会があった」とする回答で肯定的評価が全体で86%であった。後期は2年生に対して高校進学に関する説明や高校出前授業に取り組んだ。1年の SP トランプは講師予約の関係で4月以降に延期した。</p>	
<p>〔目標の達成状況と結果と分析〕 年度末の学校評価アンケート(生徒)において、「将来の進路や生き方について考える機会がありましたか」に対して、最も肯定的に回答する生徒の割合が 51%、肯定的に回答する生徒の割合を 91%以上となり、目標をおおむね達成できた。進路を意識させたキャリア学習の3年間系統立てた実践を今後も取り組んでいく。</p>	
<p>取組内容④【校種間連携】(小中連携 C0)</p> <ul style="list-style-type: none"> 小・中学校間における相互理解の意識を高めるため、学習指導や生活指導などの情報の共有を行い、生徒指導などに生かす。 小・中合同による、全教員の研修会を計画、実施する。 小学生対象の授業体験、部活動体験を計画、実施する。 	B
<p>指標 小中連携の機会を年に1回以上設ける。また、小学生を対象とした、授業体験、部活動体験を年に1回実施する。</p>	
<p>〔進捗状況〕 8月に小学校と中学校の教職員の意見交流の場を設け、10月に小学生を対象とした中学校体験を行った。</p>	
<p>〔目標の達成状況と結果と分析〕</p> <p>取り組み内容に掲げていることはすべて実行できた。また、3学期に小中見学会を行った。今後も小中のつながりを大切にしていきたい。</p>	

<p>取組内容⑤【いじめへの対応】(生活指導部)</p> <ul style="list-style-type: none"> 全教職員があらゆる場面において、いじめは絶対に許されないものであることを指導し、いじめの未然防止に努め、早期発見、早期対応に取り組む。また、いじめアンケートについてスクールライフノートを活用して入力させ、定期的に確認する。(学期に1回) 	A
<p>指標 年度末の学校評価アンケート(生徒)において、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 95%以上にする。</p>	

〔進捗状況〕

前期アンケート結果では、97%の生徒が肯定的な回答をしていた。ただし、最も肯定的な回答を選んでいる生徒は80%であり、さらなる意識改革を進める必要がある。

いじめ・いのちについて考える日では、生徒会を中心に取り組みを行った。

〔目標の達成状況と結果と分析〕

I 2月実施の生徒対象の「学校評価アンケート」(学校実施)の全学年集計結果において、

D「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」

という項目の肯定的な回答割合は96%であり、目標を達成できた。

しかしながら、最も肯定的な「あてはまる」という回答だけを見ると77%であった。

学年別にみると1年生の肯定的な回答は95% (68%+27%)、2年生は96% (81%+15%)、3年生は97% (84%+13%) という結果が出ている。傾向としては学年が上がるにつれいじめを許さない意識の向上がみられるとも捉えられるが、生徒会活動や学年での取り組みなどを通して生徒の意識改革をさらに進めていきたい。11月には教職員対象のいじめ防止に関する研修会を実施した。

同アンケートのA~Cの結果については以下の通り。

A「学校に行くのは楽しいと思いますか。」(44%→7月より1%up)、

B「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」(61%→7月より1%down)、

C「自分には、良いところがありますか。」(44%→7月より11%up)

という結果であった。些細な頑張りも認める姿勢を教職員が持つことでA~Cの肯定的な回答の向上を目指していきたい。

取組内容⑥【問題行動への対応】(生活指導部)

- 問題行動について「日々の記録」を活用し情報を共有し、発生時には全教職員で協力、連携して対応にあたる。
- 校務部会、主任会、職員会、職員朝礼などで毎日情報を共有し、生活指導の共通理解を図り、全教職員が協力、連携して指導にあたる。

B

指標 年度末の生活指導部独自アンケート(教職員)において、「所属学年の生徒の問題行動について情報を共有し連携して対応できたか」の項目について肯定的な回答割合を90%以上にする。

〔進捗状況〕

学年会だけでなく、職員朝礼や臨時での打ち合わせを必要に応じて行い、情報共有を図っている。

〔目標の達成状況と結果と分析〕

独自アンケートの結果において、肯定的意見は100パーセントであり、目標の指標を達成した。

問題行動発生時だけでなく、日ごろから授業開始時の出欠確認なども徹底して生徒の状況把握に努めたい。

取組内容⑦【防災教育の推進】(健康教育部)

- 各種(火災、地震・津波、不審者)防災訓練を年1回行い、防災に関する意識を高める。
- 地域との連携による防災訓練を計画実施し、防災拠点としての存在を確認する。

C

指標 年度末の学校評価アンケート(生徒)において、「防災活動で役に立ちたいとおもいますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を95%以上にする。(R6 94%)

〔進捗状況〕 防災訓練は2学期と3学期に計画している。また11月の防災訓練ジュニア防災リーダー講習では地域と連携したものを計画中である。

〔目標の達成状況と結果と分析〕

アンケートの結果、肯定的な回答は91%で指標を下回る結果となった。学年別では1年生85%、2年生93%、3年生95%と学年が上がるにつれて意識が上がっている。肯定的な意見を増やすためには防災訓練ジュニア防災リーダー講習が大きな役割を占めていると考えられるので、来年度は内容をさらに充実したいものを考えていきたい。しかし学年が上がるにつれて防災活動に関わりたい意識を育てることができているため、ジュニア防災リーダーの育成は順調とも考えられる。

<p>取組内容⑧ーⅠ【特別活動 生活指導部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会専門委員を分担し、生徒会活動を充実させる。 ・学校行事、学級活動などを通じ、集団意識を高める。 <p>指標 年度末の学校評価アンケート(生徒)において、「生徒会活動・委員会活動、学級の係活動に積極的に取り組んでいますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。(R6 82%)</p>	B
<p>【進歩状況】 令和7年度前期学校評価アンケートにおいて、「生徒会活動・委員会活動、学級の係活動に積極的に取り組んでいますか」の肯定的回答が82%であった。生徒会専門委員は10月末より新体制となり、前期から引き継いだことを活かしながら、生徒会活動が更に充実するように努める。また、半年間で行った活動を活かし、後半も文化祭・合唱コンクールなどの行事を通して、学級・学年・学校全体での取り組みを活性化していくことで、集団意識を高められるように努める。</p>	
<p>【目標の達成状況と結果と分析】 令和7年12月実施のアンケート結果において、肯定的意見が83%となり目標の水準を達成した。目標の指標には3%届いている状況であるが、「よくあてはまる」と答えた割合は46%で5割を下回った。5割を上回るよう、生徒会活動や学校行事をさらに充実させていきたい。</p>	
<p>取組内容⑧ーⅡ【特別活動 各学年】</p> <p>1年 様々な活動を通して、互いの違いを認め合い、支え合い協力する心を育てる。またあいさつや感謝の気持ちを伝え合える集団を育成する。</p> <p>2年 学校行事や日々の学校生活の中で、同級生だけでなく、先輩や後輩との関わりからも自分たちの役割を考えて行動できる学年集団を育成する。また、個性を認め合い、それぞれの力を發揮できるように行事への取り組み方を考え、運営の一部を任せていく。自分の強みやしたいことに目を向け、進路について考える機会を作る。</p> <p>3年 学年行事を含めた様々な活動を可能な範囲で生徒に運営させ、自主性と責任を育てる。お互いに違いを認め合い、協力し支え合える集団を育成する。また自分の進路決定に対して、自ら考えて決定できる力をつけさせる。</p>	B
<p>指標 年度末の学校評価アンケート(生徒)において、「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。(R6 2年 84%)</p>	
<p>【進歩状況】</p> <p>1年 令和7年度前期学校評価アンケートにおいて、「学校へ行くのが楽しい」の肯定的回答は81%であった。「授業はわかりやすく、楽しいですか。」の否定的回答が21%あり、勉強でのつまずきが大きな要因ではないかと推測する。一泊移住に代わる取り組みとして、校内オリエンテーションや秋の校外学習を行ってきた。委員会活動や部活動において先輩からアドバイスをもらいながら、市岡中生としての自覚と行動ができつつある。今後は、日本以外の国にルーツをもつ生徒が母国について発表し、その文化について学習することを通じ、様々な立場、お互いの違いを認め合える集団の育成に努めていきたい。</p> <p>2年 令和7年度前期学校評価アンケートにおいて、「学校へ行くのが楽しい」の肯定的回答が90%であった。校外学習や委員会活動をとおして先輩や後輩との交流を持ち、自分たちでできることは何かを考えるように努めている。行事では事前に生徒と打ち合わせを行い、生徒の声掛けで行動できる機会を増やしていきたい。</p> <p>3年 令和7年度前期学校評価アンケートにおいて、「学校へ行くのが楽しい」の肯定的回答が83%であった。行事、部活動や委員会活動などに主体的に取り組み、最高学年としての自覚をもって行動できるよう努めている。今後は、各々の進路について自ら考え、前に進んでいくことのできる力を身につけさせていきたい。</p>	
<p>【目標の達成状況と結果と分析】</p> <p>1年 令和7年度後期学校評価アンケートにおいて、「学校へ行くのが楽しい」の肯定的回答が86%であった。前期アンケート81%より上がり、「授業はわかりやすく、楽しいですか。」の否定的回答も21%から11%と下がった。部活動や委員会活動、分割授業など、様々な場面で多くの先輩や教師とつながりを持つことで中学校生活が安定してきていると推測される。一方、減ってはきているものの言葉によるトラブルも依然としてあり、学代委員会でも、言葉やコミュニケーションの取り方が自分たちの課題として数回上がってきた。互いの違いを認め合い、支え合い協力できる集団の育成に向けて人権学習や行事を考えていきたい。</p> <p>2年 令和7年度学校評価アンケートにおいて、「学校へ行くのが楽しい」の肯定的回答が88%であった。先輩の姿を見て学んだことを委員会活動や係活動で生かそうと、自分たちで考えて行動できるようになってきた。自分たちで計画を立て、実行する中で壁にぶつかることもあるが、経験をとおして次の活動に役立てるように声掛けを行っている。また、リーダーを支えるフォロワーとして何ができるのか、さらに1人1人が考えられる学年集団にしていきたい。</p>	

<p>3年 令和7年度後期学校評価アンケートにおいて、「学校へ行くのが楽しい」の肯定的回答が84%であった。委員会活動、係活動などにおいて主体的に取り組み、最高学年として自覚をもって行動できている生徒が増えた。また行事などを通してクラスや学年の輪が深まることで、落ち着いて学校生活をおくることができるようになった。</p>	
取組内容⑨【国際理解・多文化共生教育の推進】(外国人教育主担)	
・各活動において、人権教育に基盤を置いた国際理解、多文化共生教育に努める。	B
<p>指標 年度末の学校評価アンケート(生徒)において、「国際理解学習・多文化共生についての理解が深まったと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。</p>	
<p>〔進捗状況〕 渡日する生徒が増加している状況であり、多国籍でもあるため、自然に国際理解が進む方策を考える必要がある。</p>	
<p>〔目標の達成状況と結果と分析〕 後期に実施した指標の学校評価アンケート(生徒)では、肯定的な意見が90%であった。外国出身の生徒も増え、各学年に在籍してしており、国際理解が進んだ。</p>	
取組内容⑩【美化・環境整備】(健康教育部)	
・校舎内外の美化および清掃活動を通して、机・椅子等の公共物を大切にする意識を高める。	A
指標 年度末の学校評価アンケート(保護者)において、「学校は、校内美化などの環境整備がなされている」に対して、肯定的に回答する割合を98%以上にする。(R6 96%)	
<p>〔進捗状況〕 美化委員会の活動で清掃を行ったり学年で呼びかけを行ったりして机・椅子等の公共物を大切にする意識を高める活動を行っている。</p>	
<p>〔目標の達成状況と結果と分析〕 アンケートの結果は肯定的な意見が98%と指標に達することができた。各学年では1年生96%、2年生98%、3年生100%と高水準の割合になっている。この結果は学校や家庭での日々の声掛けや大人の行動が影響を与え、清掃などの環境整備に積極的な生徒を生み出していると考えられる。環境整備がなされると否定的な気持ちや行動が抑制されるため、引き続き力を入れて取り組みたい。</p>	
取組内容⑪【多様な学びの充実】(管理職)	
・多様な学びを保障するための場所を1教室以上、担当する人材を2名以上確保する。	B
指標 年度末の校内調査における、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。	
<p>〔進捗状況〕ステップアップルームをパソコン教室に設置し、サポーター及び教員により、常時2名以上の体制で生徒への学習保障を行っている。不登校生徒の在籍比率は昨年度の13.7%が7.1%と大きく減少している。一方で、まったく登校できていない生徒も多数おり、少しでも学校へ來ることのできる生徒を増やすために、引き続き、関係諸機関とも連携し取り組んでいく。</p>	
<p>〔目標の達成状況と結果と分析〕 ・不登校の在籍比率は昨年度の13.7%から12.5%と少してはあるが減少した。ステップアップルームの設置が一定の成果を示しつつある。今後も安心して学べる環境づくりを継続して進めていく。</p>	
取組内容⑫【特別支援教育の充実 情報交換】	
・個々の生徒についての、効果的に全校的な情報交換を実施する。そのために「特別支援委員会」や「特別支援小委員会」を計画的に実施する。また職員会なども利用し、情報交換を行っていく。	A
指標 教員対象の独自アンケートにおいて、「情報交換ができた」に対して、肯定的に回答する割合を98%以上にする。(R6 96%)	
<p>〔進捗状況〕 職員会や特別支援委員会、特別支援小委員会、教科会などで情報交換をする機会をつくり、計画的に進めている。</p>	
<p>〔目標の達成状況と結果と分析〕 アンケートの結果は「情報交換ができた」に対して、肯定的に回答する割合が100%となり、目標の水準を達成した。</p>	

来年度は更なる特別支援教育の充実のために多角的な視点を持って課題を設定していきたい。	
取組内容⑬【特別支援教育の充実 生徒対応】	
<ul style="list-style-type: none"> 個々の生徒に応じた、より適切な対応（指導・支援）を実践する。そのために「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」に基づいた指導と支援を行い、生徒が社会に自立できるよう、可能性を伸ばす。市岡中スタンダード ver.4.0 への移行をより全校的に取り組めるように整備していく。 	C
指標 「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」を必要な生徒分を作成でき、それを100%活用できている（学期ごとに反省などの書き込みができる） <ul style="list-style-type: none"> 教員対象の独自アンケートにおいて、「市岡中スタンダード ver.4.0 の移行に取り組めた」に対して、肯定的に回答する割合を85%以上にする。（R6 教育環境 100% 授業環境 77%） 	
〔進歩状況〕 特別支援学級の担任が中心となり、「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」の作成を行っている。また生活指導部、教務部、健康教育部とも協力し市岡中スタンダード ver.4.0を考えている。 〔目標の達成状況と結果と分析〕 アンケートの結果、肯定的な意見は教育環境のUDについては92%、授業環境のUDについては80%、人的環境のUDについては79%であった。今回も指標に達することはできなかった。 「個別の支援計画」「個別の指導計画」を活用できているが、特別支援学級担任に限定されていた。来年度は市岡中スタンダードの普及を続けることと、「個別の支援計画」「個別の指導計画」の活用方法をさらに考えていきたい。	
取組内容⑭【特別支援教育の充実 進路指導】	
<ul style="list-style-type: none"> 入学前、卒業後も含めた進路指導を実践する。そのために新入生については進学相談、中学校見学会、小中連絡会、入学前懇談会等を行い、小学校や保護者との連携を密にはかる。そして卒業生については、中高連携を深めることにより、生徒把握に努める。 	B
指標 特別支援学級在籍生徒において、卒業後の進路が決定した生徒を100%にする。（R6 100%）	
〔進歩状況〕 進路相談や学校見学を行うなど進路指導を計画的に進めている。 〔目標の達成状況と結果と分析〕 今年度も昨年度に引き続き、進路は決定する見通しを立つことができた。引き続き、進路指導を行い支援していく。	

大阪市立市岡中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>(2) 未来を切り拓く学力・体力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を50%以上にする。(R6 49%)⇒54% 中学校チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年比較し、いずれの学年も前年度より0.1ポイント向上させる。(R6[1年]国語0.99/数学0.99[2年]国語0.99/数学0.99[3年]国語0.99/数学0.85)⇒ [1年]国語/数学[2年]国語/数学[3年]国語1.00/数学0.92) 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より0.05ポイント向上させる。(R6 男子1.03/女子1.04)⇒男子0.10/女子0.10 中学校チャレンジテストにおける社会・理科・英語の平均点の対府比を、同一母集団において経年比較し、いずれの学年も前年度より0.1ポイント向上させる。(R6[1年]英語1.12[2年]社会1.12/理科0.94/英語0.94[3年]社会0.91/理科0.88/英語0.96)⇒ [1年]英語[2年]社会/理科/英語[3年]社会0.99/理科0.88/英語0.94) 授業評価アンケートにおける「授業はめあてと振り返りがわかりやすく提示されていますか」に対して、学校平均を3.55ポイント以上にする。(R6 3.53)⇒3.23 	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①-1 【教務部 授業を伴う校内研修の充実】(研修主担)</p> <ul style="list-style-type: none"> 全教職員が年1回以上の公開授業を実施し、意見交換をする中で、指導力の向上を目指す。 公開授業は2つの選択肢から個々に合ったテーマを選び研究し、授業力の向上を目指す。 <ol style="list-style-type: none"> 生徒の学力向上を目標にした、生徒がICTを活用する授業 教科に総合的読解力育成カリキュラムを取り入れた授業(対話的で深い学びを目指す) 各教職員が、テーマにそった授業展開を工夫する。日々の授業の実施方法を見直し、生徒にとって「わかりやすい授業」となるよう工夫する。その為に他の教員の授業を積極的に見学する。 	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 全教職員が年1回以上、授業研究を実践する。2回以上見学する。 年度末の学校評価アンケート(生徒)において、「授業はわかりやすく、楽しいですか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合をどの学年も85%以上にすることを目指す。(R6 1年94%、2年84%、3年83%) 	
<p>[進捗状況]</p> <p>9月で3年生教員の研修期間を終え、今後2、1年教員が予定している。授業見学も昨年度よりは積極的に行っている。</p>	
<p>[目標の達成状況と結果と分析]</p> <p>2、3年教員の研修期間は完了しており、現在1年生教員の研修期間である。授業見学は概ね各2回ずつ達成しており、相互見学による授業力向上に一定の成果があったと思われる。</p> <p>学校評価アンケート後期(生徒)において、「授業はわかりやすく、楽しいですか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合は1年89%、2年96%、3年89%になった。</p>	
<p>取組内容①-2 【教務部 自主学習習慣の確立】(学力向上担当)</p> <ul style="list-style-type: none"> 宿題や課題の提出、確認テストなどの実践により、生徒の学習理解度を確認し、生徒が一人で学ぶことができる学習教材を提供し、自主学習の習慣を身につけさせる。特に、デジタル教材の活用を積極的にすすめる。 学校元気アップ事業と共同で放課後などの補習を含めた自主学習会を開催し、参加生徒の目標をのべ800人以上にし主体的な学びと自主学習の定着をはかる。(前年度744人) 	B

指標 年度末の学校評価アンケート(生徒)において、「学校以外の場所で、自発的に授業の予習・復習をしていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 70%以上にする。(R6: 83%)	
---	--

〔進捗状況〕

生徒がパソコンを使う機会が授業内で増えており、個に対応した教材を使う姿が見られる。特に夏休みなど長期休暇での学習理解度に応じたデジタル教材の利用が多くあった。

〔目標の達成状況と結果と分析〕

- ・今年度は生徒が一人で学ぶことができる学習教材（デジタルドリルやらっこたん）が充実しており、日常的にデジタル教材を使うことが多かった。生徒一人ひとりのレベルに応じた教材として、学習習慣の定着に一定の効果はあった。指標である「学校以外の場所で、自発的に授業の予習・復習をしていますか」については肯定的に回答する生徒の割合は 69%であった。
- ・元気アップ事業の年度末集計はまだ行っていないが、1月末時点で 962 人で順調に数字を伸ばしている。

取組内容②ーⅠ【各教科】〈国語〉

- ・相手や目的に応じて、筋道立てて適切に文章を書くことができるよう、作文指導、手紙・葉書の書き方指導を行い、「書く能力」の向上に努める。また視写の活動を通して、多くの文章に触れさせることで「書く能力」および「読解力」を向上させる。
- ・話を的確に聞き取り、丁寧かつ適切に文章化する力を養えるよう、ノートのまとめ方の指導を行う。
- ・読書に親しみを持つことができるよう、図書館を利用した授業づくりや、朝読書の振り返りを行うことで、「読む力」の育成につなげる。
- ・様々な授業づくりを行いながら、言語活動に進んで取り組み、互いに伝え合うことに熱心な姿勢がみられるよう、国語への「主体的に学習に取り組む態度」を育てる。

B

指標

- ・各学年のチャレンジテストで前年比+0.5%以上にする。
- ・2年生（11月実施で一斉受験）の漢字検定合格率を 55%以上にする。

〔進捗状況〕

- ・漢字の小テストを継続して行い、漢字検定合格率が上がるよう、努力をさせている。
- ・毎時間、語句にまつわる帯小テストを実施している。
- ・また、1、2年では、ビブリオに挑戦させ、「読む力」を育成中である。
- ・自分の考えを発表させることにより、自分の意見を言いやすい環境づくりを図っている。
- ・振り返りシートや単元最後に作文を行うことにより、「書く力」を育成中である。

〔目標の達成状況と結果と分析〕

- ・「書く力」に関しては、単元ごとに初読の感想や授業終了後の変化を考えさせたり、各教材において自分の考えを言語化する取り組みを行っている。
- ・「読む力」においては、1年でビブリオバトルを行い、学年集会で代表者が発表を行った。
- ・2、3年では俳句を造り、音楽科で曲をつけるという授業連携も行った。
- ・3年生のチャレンジテストでは、前年比プラス 0.3 で目標にはとどかなかったが、大阪府平均を 0.1 超えることができた。1、2年の結果はまだ出でていない。
- ・漢字検定では、合格率は 30%弱であった。受験級を見極め、合格をすることで漢字への苦手意識を改善させていきたい。

取組内容②ーⅡ【各教科】〈社会〉

- ・自ら課題を見つけて発表する力を育成し、社会に関する関心を高められるようにする。
- ・生徒が主体の授業を展開し、社会的事象についての思考力をつけ、社会の変化をふまえて、公正に判断し表現することができるようとする。
- ・さまざまな資料やグラフを活用することにより、分析する力を養い、より深く考える力を育成する。
- ・小テストや課題学習を実施し、授業内容を精選して、基礎的な学力の定着をはかる。

B

- 指標**
 - ・授業内に実施する独自のアンケートにおいて、「社会の授業を受けて、色々な角度からものを考えたり、深めたりすることができる」「自分の考えを授業の中で表現できる」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。
 - ・各学年のチャレンジテストで府平均（1年は市）を上回る。

〔進捗状況〕

- ・授業内に実施する独自のアンケートの結果において、「社会の授業を受けて、色々な角度からものを考えたり、深めたりすることができる」の割合は、1年生で85%、2年生で92%、3年生で87%となり、「自分の考えを授業の中で表現できる」の割合は、1年で74%、2年生で92%、3年生で94%であった。
- ・ICT機器を活用してそれぞれが資料を作成したり、まとめたりする学習に取り組んでいる。
- ・授業の中で資料を活用し、資料から読みとる力をつけています。
- ・小テストを実施し、基礎学力の定着を図っている。

〔目標の達成状況と結果と分析〕

授業内に実施する独自のアンケート（後期）において、「社会の授業を受けて、色々な角度からものを考えたり、深めたりすることができる」の割合は、1年生で79%、2年生で92%、3年生で92%となり、「自分の考えを授業の中で表現できる」の割合は、1年で76%、2年生で92%、3年生で94%であり、目標を達成することができた。1年生も今後、資料を分析し、自分の意見を表現できる力をつけられるようICTなどを利用して進めていきたい。

また、1、2年生についての結果はまだあるが、3年生のチャレンジテストは府平均を下回り、目標を達成することができなかった。基礎学力をつけるとともに発展的な思考力をつけられるようにしていきたい。

取組内容②-3 【各教科】〈数学〉

- ・基本的事項の習熟を図り、基礎学力の向上に努める。特に導入における教材および授業形態の工夫を進めることで『主体的に学習に取り組む態度』を高め、学習に対する前向きな姿勢を育む。
- ・日々の授業において復習の機会を確保し、小テストなど理解度の確認を行うことや練習問題に繰り返し取り組ませることで『知識及び技能』を深める。
- ・事象を多面的にとらえ、ひとつの設問に複数の解法を見出すなど数学的な『思考力・判断力・表現力』を身につけるため、基礎学力の向上に加えて発展的な内容に取り組む力を養う。

B

- 指標**
 - ・習熟度別授業の実施前後のアンケートにおいて、「今の授業形態が自分の学習に相応しいと思う」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を10%上げる。（R6 11%増）
 - ・チャレンジテストにおいて、「大阪府の平均」との差を昨年度よりも縮める。

2年生は「大阪府の平均」を下回らない。

（R6 1年生+6.0 2年生-4.6 3年生-7.3）

〔進捗状況〕

- ・授業内に実施したアンケートの結果において、「今の授業形態が自分の学習に相応しいと思う」に対して、肯定的に回答した生徒の割合は、2年生で習熟度後は92%であった。
- ・各学年で夏季休業中に補習を行い、学力の向上に努めている。

〔目標の達成状況と結果と分析〕

授業内でのアンケートで、習熟度分割授業のほうが自分の学習に相応しいと思う割合は全体で12%増えた。

チャレンジテストは、3年生は-4.5ポイントで昨年度（2年生のときは-4.6ポイント）より差が縮まった。3年生は3学期に習熟のため可能な限りの基礎基本を徹底的に補っていく。1、2年生は結果を待って分析し、次年度につなげたい。

分割授業において個々に応じた学習がしやすくなったからか、学び合い・教え合いを積極的に行い、自主学習教材に取り組む生徒は増加傾向にある。

取組内容②-4 【各教科】〈理科〉

- ・「知識・技能」 発達段階に応じて、子どもたちが知的好奇心を持って自然に親しめるように、観察実験を多く取り入れる。また、科学的な認識の定着を図り、調べる能力や正しく判断する能力を養う。
- ・「思考・判断・表現」 指導内容に応じて、観察や実験の結果を整理し考察する学習活動を取り入れる。現象を科学的な考え方を用いて言葉や図・表などを用いて表現できるようになる。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」 主体的に実験・観察に参加できるような実験技能の習熟をめざす。

B

- 指標**
- ・授業内に実施する独自のアンケートにおいて、「授業はわかりやすい」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。
 - ・中学校チャレンジテストにおける平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.1ポイント向上させる。(R6年度2年0.91ポイント)なお、1学年においては対市比を-5ポイント以内とする。

〔進捗状況〕

理科の授業をわかりやすくするために、実験や観察を取り入れ活動している。また、考察をするときの発問に工夫をして生徒が自ら原理を導くような授業を目指している。ICT機器を使い、共同的な学習を行うことで、主体的・対話的で深い学びを目指している。1, 2年の動植物調べや元素調べなどで、生徒の興味を持った課題を取り組ませることができた。3年生においては、復習や夏休みの補習学習を行い、基礎学力の定着喚起が行うことができた。

〔目標の達成状況と結果と分析〕

授業内に実施する独自のアンケートにおいて、「授業はわかりやすい」に対して、肯定的に回答する生徒の割合は86.7%であった。次年度は、学習がいかに定着できたかの指標があると良いと考える。

中学校チャレンジテストにおける平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較したところ、3年生については、2年生時(0.93)から3年生時(0.88)で-0.05ポイントの低下であった。1, 2年生は結果を待って分析し、次年度につなげたい。

取組内容②-5 【各教科】〈音楽〉

- ・「主体的に取り組む態度」 毎時間、学習内容・学習到達点を明確にすることで意識を高め、振り返りをし「できた」という達成感を味わえるようにする。
- ・「知識・技能」発声、発音、奏法、ブレスコントロール、音程、表情、リズム感、曲のまとまりや雰囲気を表現する技能が身についているか、授業や実技テスト、筆記テストで確認する。
- ・「思考・判断・表現」 音楽の表現を高めるために、どんなことを工夫するか考え、判断し、実践につなげられるようにする。また、作曲家の意図や思い、楽譜に書かれている記号などを意識して演奏できているかを毎回の授業や実技テスト等により確認する。

A

- 指標**
- 昨年度の授業独自アンケートより「作詞作曲者の意図を考え表現しようとしている」と「学習したことが生活の役に立っている」の項目に対し、学年が上がるごとに肯定的割合が上がっていた。表現することと生活の役に立っていることの結びつきの関係があるのかをみたく、指標を授業内に実施する独自のアンケートにおいて、「学習したことが生活に役立っている」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を70%以上にする。

〔進捗状況〕

実技(歌唱)特に発声において、発声が特別なものではなく生活の中で自然に使い分けている声(甘え声・怒り声・悲鳴など)を例にあげながら、自信をもって取り組めるようにしている。

(器楽)基本練習を徹底し、苦手な生徒もどんな曲でも1か所以上は演奏できる箇所があるように取り組んでいる。

鑑賞に関しては、曲の時代背景も学習し、作曲者がどのような心情だったのかを学ぶことで、生徒自身が創作活動する時のヒントになるように関連付けて取り組んでいる。

〔目標の達成状況と結果と分析〕

- ・独自アンケート「学習したことが生活の役にたっている」の肯定的回答は1年 77%、2年 90%、3年 93%であり、全体として 86.6%で達成できた。2年継続して実技を生活と関連させて取り組んだことにより、音楽は目に見えて学習したことが分かることがほとんどないが、音楽が生活にもたらす影響は大きく、人生を彩り豊かにしてくれるものと考える生徒の学年が上がるごとに増えていることがより分かった。また「演奏の際には、作詞・作曲者の想いを理解し表現しようとしている」という質問も1年生 70%、2年生 81%、3年生 91%という結果で、表現の幅が増えることと学んだことが生活の役に立っていることが比例していることが2年連続同じ結果になった。今後はさらに、音楽が生活に役立っていることが常に実感できるよう、発問や取り組み内容をブラッシュアップしていく。

取組内容②-6 【各教科】<美術>

- ・制作の手順や道具の使い方をわかりやすく伝えるために ICT 機器を活用する。また、美術の得意な子どもから苦手な子どもまで取り組めるように、課題の設定を工夫する。
- ・グループで話し合い、自分の考えを深め作品をより良いものにする。また、鑑賞によって他者の思いを汲み取り、自分の考えを伝えられるようにする。

B

- 指標
- ・年度末の学校評価アンケート（生徒）において、「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を昨年の 91%と同じか上回る。

〔進捗状況〕

前期の学校評価アンケートにおいて「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」肯定的回答は 90%であった。

鑑賞については、各学年行った。教科書についている動画や、芸術大学が提供してくれている作品などを使い、気軽に美術を鑑賞し感じたことを言語化できるように練習していきたい。

〔目標の達成状況と結果と分析〕

後期学校評価アンケートにおいて「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の肯定的回答は1年 87%、2年 93%、3年 95%、全体で 92%であった。鑑賞を目的とした授業だけでなく、作品制作の過程で相互鑑賞をして意見交換をしたり、作品について相談する時間を設けた。美術での ICT の活用は Teams の会議室機能を使って手元の動作を映したり、「オクリンクプラス」で授業記録をつけて振り返りができるようにした。授業記録は写真を撮ることで変化を実感しやすい。教科書に記載されている動画は映像も美しく、生徒の理解、興味関心を引き出すうえで効果的だと感じるので、今後も活用していきたい。

取組内容②-7 【各教科】<保健体育>

- ・授業に必要な用具をそろえ、毎時間ラジオ体操、補強運動等の準備運動を意欲的に取り組んでいるかを自他ともに点検させて主体的に学習に取り組む態度を高める。
- ・単元ごとの学習カード(考察項目含む)等を記入させることにより、各自の思考・判断力を高める。また、相互点検させることで、互いの技能などの確認を行い、適切な判断力や他者に伝える力を養う。
- ・運動の楽しさ、達成感や喜びを味わいながら技能を高めるための授業の工夫を行う。
- ・定期考查、学習カードなどを通じ、保健体育に関する総合的な知識・理解を高める。

B

- 指標
- ・全国体力・運動能力調査の結果において、2年生の体力合計得点を大阪市平均以上にする。
 - ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、「保健体育の授業では進んで学習に参加している」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を大阪市平均以上にする。
 - ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、「保健体育の授業は楽しいですか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を大阪市平均以上にする。

〔進捗状況〕

- ・毎時間、体育委員を中心に号令をかけ、準備運動や活動が意欲的に取り組めているかを自他ともに点検させることで主体的に学習に取り組む態度を高めている。
- ・単元ごとの記録カード(考察項目含む)等を記入させることにより、各自の思考・判断力を高めている。また、相互点検させることで、互いの技能や形などの確認を行い、適切な判断力や、他者に伝える力を養っている。
- ・教科書や動画教材などで技術への知識・理解が高まることによって、見る目が養われ、具体的な改善点や練習方法を見つけられるようになってきている。

〔目標の達成状況と結果と分析〕

- ・「全国体力・運動能力調査」の結果において、体力合計点は男子 49.4、女子 50.5 で大阪市平均(男子 49.5、女子 50.6) とほぼ変わらなかった。
- ・「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、「保健体育の授業では進んで学習に参加している」の肯定的回答が男子が 92.7、女子が 89.3 で、大阪市平均(男子 91.6、女子 87.2) を上回ることができた。
- ・「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、「保健体育の授業は楽しいですか」の肯定的回答は男子が 90.9、女子が 89.5 で、大阪市平均(男子 92.5、女子 82.9) に比べて男子は下回っている。

引き続き振り返りシートを活用するなどして、毎時間の目標や取り組み内容の振り返りを行いながら意欲的に取り組める環境づくりに努めたい。

取組内容②-8 【各教科】〈技術・家庭〉

- ・生徒一人一人が自主的に取り組み、互いに協力し合い、生活の自立に必要な基礎基本的な知識や技能の定着に努める。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」については、授業中の発表などの積極性な態度、話を聞く姿勢、班活動で意見をまとめて意欲的に発表するなどの姿勢、授業の参加で、より良い生活を送るための自立に向けての生き抜く力を養う。
- ・「思考・判断・表現」については、ノートやプリント、ワークにメモをとり、テスト前の自主学習等を提出することで、自ら考えまとめて表現する力を養う。
- ・「知識・技能」については、学習した内容を定期テストの実施によりさらなる定着を図る。また実習を行うことで作業の丁寧さ、行程を考えることで意欲的に基礎的な技能の完成度を高めたものを身に着ける力を養う。

B

指標 授業内に実施する独自のアンケートにおいて、「授業はわかりやすい」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を技術・家庭科の平均をとって 80%以上にする。

〔進捗状況〕

- ・座学の授業では、生活に密着した教材を扱うことにより、生徒の関心意欲も高まっている。班で行う活動を増やすことで、自分たちで協力し合い、考えて学び合う姿勢がみられてきている。
- ・試験前に振り返り学習をして中学校生活 3 年間を見越して身につけることや覚えていくことの指導を引き続き努める。
- ・1 年生の家庭分野では、調理実習や給食で使用する三角巾にししゅうで名前を縫い、使っていくようにしていく。
- ・1 年生の調理実習は、夏休みに自宅で包丁の使用を確認し、調理に触れることに努めていく。

〔目標の達成状況と結果と分析〕

実習や班活動を、積極的に参加する生徒も学年が上がるにつれて発言ができるようになってきている。1 学年では、まだ一人で自律できていない生徒も見うけられるが、周りの生徒に協力してもらいながらなんとか行っているが、大人の助けが必要になるケースがはっきりとしている生徒もいた。取り組み内容、実習への事前指導、実習時間配分を考え、生徒が教わる授業から自分で考え学びを深める授業を継続して定着させていく。

座学においては教え合いや、班活動の時間を増やすことはできた。

調理実習は各学年生徒自身が事前学習時に班分けをして、自分たちのすることをまとめて実践に挑むことができた。ただ、冬場の調理実習は水が冷たく、今時お湯が出ないのが難点で、今後の検討をお願いしたい。

技術の実習は各自が問題を解決するための工夫点を考え、班で協力して行うことができた。

アンケート結果は 82% であったが、よりよいものにしていく。

取組内容②-9 【各教科】<英語>

・「知識・技能」については、授業内で単語テスト・文法演習を繰り返し行うことで基礎的な英語力を培う。

・「思考力・判断力・表現力」については、授業内のゲームやペアワーク、グループワークを通して楽しみながら失敗を恐れずに英語を使おうとする姿勢を育成し、英語の運用力に繋げる。また、C-NETと共に、スピーチやディスカッションなどのパフォーマンステストを学期に1回は行う。

・「主体的に学習に取り組む態度」については、宿題のチェックやフィードバックをこまめに行うことで、生徒自ら英語を学ぼうとする姿勢を育成する。また、音楽やリズムを使いながら英語を楽しむ機会を増やす。

B

指標 ・習熟度別授業の実施前後のアンケートにおいて、「英語の授業が楽しい」の割合を10%上げる。

・1, 3年生は、府のチャレンジテストの平均点を上回る。2年生は前年度の数値を上回る。

〔進捗状況〕

・1学期（1年生）の習熟度別授業を終えて、「英語の授業が楽しい」と答える生徒の割合は前後で差はみられなかったが、引き続き継続的に1クラスを2人の教員で担当することで基礎的な英語力を育成したい。

・C-NETの協力のもと、アウトプットを重視した授業展開を行うなど、引き続き主体的に学ぼうとする姿勢の育成に努めている。

〔目標の達成状況と結果と分析〕

・授業展開は概ね予定していた通りに実施できた。C-netとのパフォーマンステストも各学年予定通り実施できた。

・習熟度別授業の実施前後のアンケート「英語の授業が楽しい」の割合は、1年前91%→後82% 3年前76%→後93% 2年前96%→未実施 となり+10%は一部しか達成できなかった。

・3年生のチャレンジテストの結果は、大阪府平均点-3.2（2年次-3.5）であった。1, 2年生は結果を待って分析し、次年度につなげたい。

C

取組内容③【図書館】（図書主担）

・生徒図書委員会で図書だよりを制作し、毎月発行を行い図書室の来館者数を増やす。また、授業の進度や内容、行事に関連した本・書籍を各学年のフロアに置き、本に興味を持たせる。

・学年で朝読書を行い、読書の習慣を身につけさせる。

・今年度より、図書館司書およびはとばカルッチャとが協働し、学校・図書館司書・地域の三体制で図書室利用の活性化を図る。

指標 図書室の来館者数を毎月100名以上にする。（昨年度8・12月以外で毎月100人を超えた。）

本の貸し出し数を750冊以上にする。（昨年度750冊）

〔進捗状況〕

・各月の来館者数は次のとおりである。

5月：111人、6月：188人、7月：69人、8月：7人、9月：236人、10月：45人（10日現在）

・本の貸し出し数：354冊（10月10日現在）

・図書委員会にて各月の目標を決める際に、その取り組みと指標を各学年に決めさせるような形を取り、それぞれのオリジナルな活動ができている。

・図書館を一息つける居場所的な要素を強めるためのクッション常設に向けて、はとばのスタッフと協議を進めている。

〔目標の達成状況と結果と分析〕

来館者数について、7月、8月、11月、12月において目標を達成することができなかった。貸出数についても400冊にとどまっている。

委員会で決定した目標に対して、各学年オリジナルな取り組みはできているが、昨年度実施したような委員会全体でのイベントなど、来館意欲や本を手に取ってもらえるアプローチが少なかったことが要因であると考える。

次年度は来館意欲や読書意欲を刺激するようなアプローチができるように、今年度の反省を活かしたい。

取組内容④【若手教員研修の充実】(メンター)

- ・校内研究授業、各種校内研修の充実を図り、教科指導力を含む、教師力の向上を図る。
- ・今年度は人権学習の取り組みをメインの課題とする。

指標 経験年数5年未満の教員を中心に、教科指導力を高めるため、校内の研究授業や各種研修を年3回以上実施する。

A

〔進捗状況〕

- ・5月（1年間の課題決定）実施済み。
- ・11月に民族講師を招いて研修を実施予定。

〔目標の達成状況と結果と分析〕

・5月・11月・3月（予定）にメンティ研修会を実施。本年度は学級運営、学年運営や校務分掌以外に、人権にかかわる取り組みを課題とし計画を立てた。

11月の研修では民族講師による学習会を実施した。

3月のメンティ研修で振り返りを行い次年度につなげていきたい。

取組内容⑤-1【学力向上 各学年 1年】

- ・チャイム着席を定着させ、落ち着いた環境で学習に取り組む姿勢を養う。
- ・週3日、朝読書を取り入れ、本に親しみを持つとともに、授業前に気持ちの切り替えができるようにする。

指標 チャレンジテストの平均点を大阪市の平均程度にする。

C

〔進捗状況〕

チャイム着席については、学級代表をはじめとして生徒同士で声をかけあえるようになってきている。ただ、声掛けがないと数人が教室に入れていない現状である。また、教室に入ってからも着席を促す声掛けが必要である。次の時間の準備を事前にする習慣が定着していない生徒が、各クラス数人いる。ひきつづき、生徒と教師で声掛けをしながら、なかなか習慣が定着しない生徒については、個別に指導、相談して方法を探っていきたい。

朝読書については、クラス全員がそろって読書をできていない状況である。読書週間を設けるなど、再度、方針を検討して本に親しむ気持ちを育てたい。

〔目標の達成状況と結果と分析〕

・チャレンジテストについては、結果を待つ状態である。

チャイム着席は定着しつつあるが、特定の数人が声をかけられてもなかなか着席できない状態である。ひきつづき、委員、教師とも声掛けをしていきたい。

・朝読書については定着しておらず、来年度に向けて朝時間の活用を検討する必要がある。

取組内容⑤-2【学力向上 各学年 2年】

- ・朝に週2日の読書と、週末にはタイピング練習を取り組み、落ち着いて1日の授業に取り組めるようにする。
- ・チャイム着席を継続し、自主的に学習する習慣を定着させる。

指標 チャレンジテストの平均点を前年度+2ポイント程度にする。

B

〔進捗状況〕

タイピング練習の取り組みはできておらず、週3日の朝読書を行っている。チャイム前には風紀委員や学級代表が声掛けを行い、チャイムで授業は開始できている。委員からの声掛けを減らして行けるように、それぞれの意識を高めていきたい。

〔目標の達成状況と結果と分析〕

- ・チャレンジテストの結果が出ていないため、取り組み内容の分析を行う。
- 3学期は朝学習の時間にタイピング練習としてらっこたんに取り組むことができた。1・2学期に取り組むことができなかったため、3学期は集中してタイピング練習を行い、来年度の全国学力調査テストに向けての練習を行った。
- ・2分前着席し、チャイムと同時に授業が開始できる状態であった。来年度も落ち着いて授業に取り組めるように努めていく。

取組内容⑤-3【学力向上 各学年 3年】

- ・朝の自主学習や授業、集会などを通して学習に対する意識を高め、自らに必要な学習に積極的に取り組み、学年全体がそれぞれの進路に向けてしっかり努力できる気持ちを持たせる。

B

指標 チャレンジテストの平均正答率を大阪市の平均程度にする。

〔進捗状況〕

夏季休業中は、5教科を中心に補習授業に取り組み学力の向上に努めた。また朝の学習だけでなく、放課後には国語の補習も実施。チャイム前着席の学年による声掛けを減らし、自ら学習に向かう姿勢をさらに高めていきたい。

〔目標の達成状況結果と分析〕

- ・チャレンジテストでは2年時の平均値より-2.7ポイントであった。後期も引き続き朝のパソコンでの学習をし、さらには夕方5時以降から取り組める夜学という取り組みも行った。高校生活にスムーズに移行できるよう、最後まで落ち着いた状況で取り組めるように努める。

取組内容⑥【食育】(給食主担)

- ・「食育だより」などを発行して生徒、保護者の意識・関心を高める。
- ・給食の時間などを通して、食生活や健康、マナー、衛生面について心がける意識を育む。
- ・学校栄養教諭から給食(必要な栄養所要量)について、話を聞く機会を設ける。

B

指標 給食前の手洗いの徹底、当番のエプロン・マスク・三角巾の着用の徹底を図る。

〔進捗状況〕

手洗いの徹底はできているが、当番のエプロン等の着用は学年やクラスによって、実施のばらつきがある。1年生の忘れ物をなくしていく習慣をつけるために、保健委員がクラスで忘れ物チェックを行うことを、今後の取り組みにしていく。また、全学年、全クラスでの忘れ物をなくすように取り組んでいく。

〔目標の達成状況と結果と分析〕

- ・毎月「食育だより」を配信し、給食連絡事項やその他の物も配信することができました。
- 給食の準備を行うときの、給食当番のエプロン、三角巾、マスク着用を、保健委員が声掛けで啓蒙し、1学年では忘れ物チェックをして意識の向上につなげている。今後も引き続き指導する必要がある。
- ・アレルギー食品の新システムで、教育委員からの連絡が秋から始まり変更が多かったため、栄養教諭の来校予定の話がとん挫したため、今後は学校栄養教諭の有無の基準や情報交換をしていく、職員への連絡をしていくように取り組む。

取組内容⑦【健康な生活習慣の確立】(保健主事・養護教諭)

- ・生徒自らが健康について関心が持てるような保健教育の推進を図る。
- ・定期健康診の結果を的確に本人と保護者に知らせ、健康についての意識を持ってもらえるように働きかける。

B

指標 定期的な保健通信の発行。

健康診断の未受検者数を減少させる。

定期健康診断での結果等は複数回の通知をする。

〔進捗状況〕

- ・長期休業前にほけんだよりを配信するよう作成している。
- ・未受検者検診を受検し欠席者の対応をしている。
- ・受診が必要な生徒について、2学期末懇談で再度お知らせを配付する。

〔目標の達成状況と結果と分析〕

健康診断の結果、医療機関への受診生徒の割合は41%で昨年度と同じであった。未受診の家庭へ、健康相談等を実施し早期治療につなげるよう取り組む必要がある。

定期健康診断を受けることができなかった生徒に対しては、自宅から学校医の病院に受診できるよう連携し対応する。

取組内容⑧【体育的行事の充実】(保健体育科)

- ・体育委員などのリーダーを育成し、そのリーダーとともに学校行事や学年行事、学級活動の充実を図る。
- ・各学年での球技大会を1回以上企画運営する。

B

指標 前期、後期の委員会終了時にアンケートを行い「体育委員として自信をもって指示を出せるようになった」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。

〔進捗状況〕

- ・体育委員会で、良きリーダーとしての在り方について考えさせている。また、号令のかけ方や生徒の動かし方などを指導し、リーダー育成に努めている。
- ・体育大会などの体育的行事では、生徒自身の手で行事が充実させられるように、生徒会や学級委員を指導している。
- ・前期の体育委員アンケートでは「体育委員として自信をもって指示を出せるようになったか?」の質問に対しての肯定的回答が96%であった。

〔目標の達成状況と結果と分析〕

「体育委員として自信をもって指示を出せるようになった」という質問において、後期は体育委員全員が肯定的な回答であった。今年度は、駅伝大会を実施できなかったが、各学年で球技大会などを実施することができ、生徒が主体的に取り組み大会の運営に努めることができている。

取組内容⑨【体力向上への支援】(保健体育科)

- ・授業内容や教材を工夫し、生徒に運動への興味関心や目標を持たせる。
- ・運動量を意識した授業計画を立てる。
- ・運動する時間を確保するために昼休みのグランドでの過ごし方等を体育委員会を中心に立案する。

B

指標

- ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、「保健体育の授業で、目標を意識して学習することで、できたりわかったりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を大阪市平均以上にする。
- ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、「保健体育の授業でタブレットなどのICTを使って学習することで、できたり・わかったりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を大阪市平均以上にする。

〔進捗状況〕

- ・教師間で教材研究などの意見交換を行い、授業の工夫を行っている。
- ・前期の体育委員会で昼休みの過ごし方についての課題について話し合い、ボール貸し出しの役割分担などの運営について意見交換をしている。

〔目標の達成状況と結果と分析〕

・全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、「保健体育の授業で、目標を意識して学習することで、できたりわかったりすることができますか」の肯定的回答は男子83.7、女子83.6で大阪市平均(男子84.7、女子79.3)であった。

・全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、「保健体育の授業でタブレットなどのICTを使って学習することで、できたり・わかったりすることができますか」の肯定的回答は男子56.3、女子65.0で大阪市平均(男子60.7、女子55.3)であった。

保健の授業以外でもICT機器の活用方法をさらに検討する必要がある。

大阪市立市岡中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>(3) 学びを支える教育環境の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。⇒70.9% 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を50%以上にする。⇒41.86% 地域の人と協働し、学校内居場所事業「はとばカルッチャ」を週に1回程度開催し、生徒の自己有用感を高める。⇒週1回程度の開催に加え、元気アップ事業として天体観測会を2回実施した。 	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】（ICT主担）</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT機器の活用により、視覚的に教材提示をすることで、生徒にとって授業が楽しく、わかりやすくなるような工夫をする。 デジタル教科書やデジタルドリル等を活用し、個別最適な学習を推進する。 校内研修を実施し、教職員の教育DXへの理解を深める。 	C
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員対象のアンケートにおいて、「ICT機器を用いて個別最適化学習を行ったことがある」と回答する教員の割合を30%以上にする。（今年度より新規） デジタル教科書やデジタルドリルの生徒の使用率を40%以上にする。 学期に1度以上の校内研修を行う。 	
<p>〔進捗状況〕</p> <p>指標に沿って、デジタル教科書の早期準備やデジタルドリルの使用を進めていっている途中である。各部の部会をペーパーレス化を進めていけるよう、支援員の方とともに進めている。今後はデジタルドリルの有用性についての校内研修を行う予定である。</p>	
<p>〔目標の達成状況と結果と分析〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 「デジタルドリルやデジタル教科書を日常的に使っている教員数」は40%以上維持できている。それにより、デジタルドリルの活用も生徒は80%を超えている。 次年度は、校内研修を充実させ、個別最適化学習に向けて学校全体で取り組んでいきたい。 	
<p>取組内容②【働き方改革】（管理職）</p> <ul style="list-style-type: none"> 心理的安全性をベースとした働きやすい職場環境を創出する。 	C
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 月の勤務時間外労働が80時間を超える教職員を年間延べ36人以内とする。 長期休業等を活用し、年次有給休暇を全員が5日以上取得する。 	
<p>〔進捗状況〕</p> <p>月の勤務時間外労働が80時間を超える教職員は8月末現在で17人である。年次有給休暇については、8月末現在で、5日以上取得している教職員が49名中33名である。教職員が働き方について工夫している様子が見て取れる。引き続き、ノー残業デーに向けて業務を調整する等、全教職員で取り組んでいく。</p>	
<p>〔目標の達成状況と結果と分析〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 月の勤務時間外労働が80時間を超える教職員は1月末現在で33人であった。年次有給休暇については、1月末現在で5日以上取得している教職員が49名中5名であった。全教職員で働きやすい職場環境についての意見を交流し、さらなる業務改善に取り組んでいく。 	
<p>取組内容③【家庭・地域などと連携・協働した教育の推進】（管理職）</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域による学校支援の取組や、学校・地域・家庭の連携による様々な取組などの一層の推進を進める。 	C
<p>指標</p> <p>年度末の学校評価アンケート（生徒）において、「学校や家庭や地域に居場所はありますか」に対して、最も肯定的に回答する生徒の割合を75%以上にする。（R 72%）</p>	

〔進捗状況〕 前期の学校評価アンケート（生徒）において、最も肯定的に回答する生徒の割合は 69% であった。困りごとがあったときに気軽に相談できるような関係性を築き、学校や家庭や地域で連携し、生徒の居場所づくりをすすめていく。

〔目標の達成状況と結果と分析〕

・後期の学校評価アンケート（生徒）において、最も肯定的に回答する生徒の割合は 67% であり、中間時よりも減少した。学校、家庭において互いを尊重し合う人間関係づくりを推進し、生徒が安心して過ごせる場を提供できるようにしていく。